

A D B アジア経済見通し インド経済は減速、 持続的な景気刺激策が必要

【香港、2009年3月31日】アジア開発銀行(ADB)が本日発表した「2009年アジア経済見通し」(Asian Development Outlook (ADO) 2009)によると、インドの成長率は2008年の7.1%から2009年は5%となる見込みであるが、世界経済が回復基調に入り、インド国内での低金利によって民間投資や製造業が活気を取り戻せば、2010年は成長が加速する見通しである ([報告書本体はこちら](#))。

ADO2009は、2008年12月から2009年2月までにインド政府が打ち出した景気刺激策によって、同国は2010年には6.5%成長を達成するだろうとしている。

インドでは農作物の生産が好調である一方で物品税が低く、内需が弱いことから、インフレ率は今年度・来年度ともに低い状態にとどまることが見込まれる。具体的には、2008年度が3.5%、2009年度が国内市場が回復し、国際商品価格が上昇することから4%程度になると報告書は予想している。

しかし一方で、深刻なリスクや課題もある。主要先進国で2010年度の第二四半期以降も不況が長引けば、インド経済の回復にも影響を及ぼす。またインド当局は、短期的な景気刺激策と、債務の長期的な持続性は互いに相殺する関係にあることについて認識する必要がある。

この点についてADBの李鐘和(Jong-Wha Lee)チーフエコノミスト代行は、「インドの中央政府にとって、債務の持続性を長期にわたって確保するためには、中期的に運営可能な水準まで赤字を縮小することが不可欠である。現在の大幅赤字が一時的なものに過ぎないという明白な兆しが見えない限り、景気刺激のための財政政策が投資家のコンフィデンスを損ないかねない」と述べている。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

今般の世界経済危機に伴って、インド政府は財政再建計画を先送りせざるを得なくなっている。2008年度の中央政府の財政赤字は、目標である対GDP比2.5%を上回り、6%に達するものと見込まれる。これに予算勘定外分や州政府の赤字分を足し合わせると、全体の赤字は対GDP比10%との試算もある。

A D O 2009 は、インド政府にとって、長期的かつ広範囲にわたる高成長を実現する上で不可欠であるインフラ、および社会セクターへの支出を増やすためには、税制の見直し、公共投資の質と公共プログラムの効率向上が急務であると指摘している。

お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: amochizuki@adb.org

ADB のニュースリリース (和文) は、下記 URL にてもご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>